

埴輪になつた牛 朝鮮半島から渡来

中国に魏、吳、蜀の三つの勢力が対立していた三国時代。日本列島にあった倭国は、魏と友好関係を結んでいて使者の往来があつたらしく、魏倭人伝に当時の様子が記されている。それによると、倭国には牛も、馬も、虎も、ヒョウも、カササギもいないと書かれている。もともと日本に牛はおらず、朝鮮半島から渡つて來た人々が連れて來たようだ。

出石神社（豊岡市出石町宮内）の神様天日槍命は新羅の王子で、朝鮮から渡来した人たちの代表的存在だ。日本書紀には垂仁天皇、古事記

に牛に比べるとして少ないとあるのかかもしれない。馬に比べるとずつと少ない鼻環とは、牛の鼻に付いている輪つかのこと。左右の鼻の穴を隔てる壁に穴を開けて車やすきを引かせた。

最古の牛埴輪といわれ、鼻環が付いているのも重要な意味を持つ。

県立但馬牧場公園（新温泉町丹生）内の但馬牛博物館では、但馬牛の歴史と現状を解説している。秋の一日、牛に引かれて博物館巡りはいかがでしょう。

■筆者プロフィル
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。



地域の宝

但馬牛物語

★5★

渡辺 大直

には応神天皇の時代に渡来したと書かれている。垂仁天皇の時代なら弥生時代、応神天皇の時代なら古墳時代の初めごろ、朝鮮から渡来した人が多く、このころに牛もやつて來たようだ。



船宮遺跡から出土した牛形埴輪の一部。鼻環を付けていたことが分かる

つまり船宮古墳の時代には、牛は農耕や運搬に使われていたと想像できる。この牛たちほどすると但馬牛の遠い祖先なのかもしれません。

ちなみに、この牛を操る技術は今も受け継がれています。熟練した牛飼いたちは共進会で但馬牛の素晴らしい立ち姿を見せてくれる。

船宮古墳から出土した牛埴輪は、朝来市埋蔵文化センター（同市山東町大月）が所蔵しているが、11月10日までは豊岡市立歴史博物館（同市白高町称布）で特別展示している。

船宮古墳から出土した牛形埴輪の一部。鼻環を付けていたことが分かる